

【小学校・体育】 平成30年度の重点

1 指導計画及び評価計画の工夫・改善

- 生涯スポーツの基礎づくりと体力の向上の観点を重視し、地域や学校の実態及び児童の特性や発達の段階を十分考慮するとともに、6年間を見通した指導計画の工夫・改善に努める。
- 運動領域の単元構成や年間配当については、低・中・高学年の3区分ごとの複数学年の中で弾力的に扱い、工夫するよう努める。
- 保健領域では、運動領域や他教科等との関連を図りながら、効果的な学習が行われるよう、適切な時期にある程度まとまった時間を配当するように努める。
- 指導計画では、小・中学校の体育・保健体育の領域構成と学習内容の系統性を考慮し、小・中学校の一層の連携に努める。
- 学習過程に評価場面を適切に位置付けるとともに、児童が次の学習に生かすための自己評価・相互評価の工夫・改善に努める。

2 指導方法及び評価方法の工夫・改善

- 児童一人ひとりの能力・適性に応じた学習過程を工夫し、運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わわせ、主体的な運動の学び方が身に付くよう配慮するとともに、個に応じた学習指導の充実に努める。
- 課題を解決する学習を通して、自ら考え、判断する力や仲間と協力し、進んで運動に親しむ態度を育てるとともに、児童一人ひとりの特性に応じた場づくりや教材・教具、学習カード、学習形態等の工夫・開発に努める。
- 保健領域では、児童が生涯を通じて、自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培うことを目指し、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うなど指導方法の工夫に努める。
- 観点別学習状況の評価規準について不断の見直しをするとともに、その内容にふさわしい評価の具体的な方法の工夫・改善を図り、指導と評価の一体化に努める。

3 指導における留意点

- 言語活動の充実にについては、運動量を減らさず、場面に応じた教師の情報提供、児童の教え合い活動、学習カードの工夫等により言語活動の質的な向上を目指すこと。
- 道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、道徳科の内容について、体育科の特質に応じて適切な指導をする。
- 幼稚園等や中学校との接続については、幼児期運動指針や中学校学習指導要領解説等を参照し、接続を意識した指導計画の作成に努めること。

参考

◆県教育委員会ホームページ

- 評価資料集Ⅲ－評価活動の参考資料として－小学校

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/363881.pdf>

- 教育課程編成の指針（幼稚園，小学校，中学校）小学校体育（平成22年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6668/index.html>

- 教育課程編成の指針（幼稚園，小学校，中学校）小学校体育（平成30年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>

◆文部科学省ホームページ

- 移行措置関連資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387780.htm